

国際化学肥料ニュース (2015年4月)

肥料業界の2015年4月動態

- * 5月1日、ロシアのUralkali社がインドIPL社と2015年度の塩化加里輸入契約を締結したと発表した。契約数量80万トン、価格がCFR332ドル/トンで、前年度より10ドル/トンの値上げである。契約期間が2015年5月～2016年3月である。

これを受けて、他の加里肥料大手もインドと同じ価格で順次で契約する見通しとなる。

- * 4月10日、ロシアのUralkali社が中国と2015年度の塩化加里輸入契約を締結したと発表した。契約数量85万トン、価格がCFR315ドル/トンである。契約期間が2015年4～12月である。

また、ヨルダンAPC社も中国と2015年度の塩化加里輸入契約を締結した。契約数量60万トン、価格がCFR315ドル/トンである。

4月10日現在、中国が契約した2015年の塩化加里輸入予定数量がすでに495万トンに達し、輸入元の内訳はカナダ180万トン、ベラルーシ170万トン、ロシア85万トン、ヨルダン60万トンである。イスラエルとの輸入契約も近日中に締結する予定である。契約価格はすべてCFR315ドル/トンである。

- * イスラエルICL社は中国との間に2015年の塩化加里輸入契約を締結した。契約数量110万トン、価格がCFR315ドル/トンである。但し、ICL社の従業員ストライキの影響で、契約通りにその数量を提供できか否かが微妙である。

これで、中国が全ての加里肥料大手との間に2015年の塩化加里輸入契約を完了した。合計契約数量600万トン、輸入価格が全てCFR315ドル/トンである。

- * 4月10日に開札したインドSTC社の尿素入札は、計22社が応札し、応札量が293～296万トンである。最低入札価格はCFR266ドル/トンで、尿素の国際市場価格の低迷を確実に表れた。なお、今回の購買意向量が100～150万トンである。

その後、中国尿素の輸出商社9社は、応札価格がイラン尿素より15～20ドル/トン高くなったおよびSTC社が支払期間を延長するという理由で応札をキャンセルした。4月16日現在、有効入札が13件、確定した尿素36万トン、ほとんどイラン産尿素である。その応札価格の順では、MTPL社CFR266ドル/トンで6万トン、Transglobe社CFR268.5～269.22ドル/トンで12万トン、Global社CFR268.5～269.22ドル/トンで18万トンである。

大手各社の営業業績

- * ロシア **Uralkali** 社が 1～3 月の塩化加里生産数量を公表した。昨年 11 月に発生した **Solikamsk 2** 号加里鉱山の逆流事故の影響で鉱山閉鎖となり、1～3 月の塩化加里生産量が 8%減少し、270 万トンであった。その生産量の減少を食い止めるため、現在、近所にある **Solikamsk 1** 号加里鉱山の設備増強を行っている。また、ロシア政府から新たに加里鉱山の採掘権を取得した。当該新鉱山のカーナリット埋蔵量が 5570 万トンである。
- * ノルウェー **Yara** 社が 2015 年第 1 四半期の業績を公表した。原油と天然ガスの価格下落による生産コストの低下及び販売数量の増加で、純利益が 7.29 億ノルウェークローネ（約 9688 万ドル）であった。第 1 四半期に肥料生産数量 3%増、販売数量 11%増であった。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 4 月 10 日、ロシアの **EuroChem** 社はイタリアの **Maire Tecnimont** 社と **SACE** 社との間にロシア、アメリカ、カザフスタンに化学肥料工場を建設する覚書を交えた。
その覚書によれば、**EuroChem** 社はロシアに 1 ヶ所のアンモニア工場と 2 ヶ所の尿素工場、アメリカのルイジアナ州にアンモニアと尿素工場、カザフスタンにアンモニアと尿素工場をそれぞれ建設する計画で、総生産能力がアンモニア 500 万トン／年、尿素 750 万トン／年である。**Maire Tecnimont** 社が技術、設備、施工を担当し、**SACE** 社が保険を請け負う。
- * カザフスタン政府は **Zhambyl** 州 **Zhangatas** 市に建設する予定の化学肥料工場が起工したと発表した。当該工場はロシアの **EuroChem** 社が 1.5 億ドルを投資し、2018 年に完成する予定である。生産能力は年間 100 万トンりん酸肥料、30 万トン化成肥料、60 万トン硫酸加里、66 万トン飼料用りん酸カルシウム、39 万トン塩化カルシウム、12 万トン硫酸マグネシウムである。
- * スペインの加里メーカー **High Filed** 社はスペイン国内の **Muga** 加里鉱山の評価報告を公表した。探索の結果では、加里鉱脈の K₂O 含有量が 12.7～13.5%で、予測埋蔵量が 2.32 億トンにも達する。
High Filed 社の担当者は今年第 2 四半期に工事の入札を行い、第 4 四半期から鉱山の建設を開始すると表明した。
- * マレーシアに建設中の **Sabah Ammonia Urea** 工場（**Samur** プロジェクト）はすでに 90%の工事が完了し、2016 年に生産が開始することが明らかになった。当該工場は **Sabah** 近海の天然ガスを原料として、生産能力はアンモニア 2100 トン／日、尿素 3500

トン／日で、投資額 15 億ドル、三菱重工、マレーシア Apex 社、インドネシア Pt Rekayasa 工業の 3 社が組んでいる JV で施工を担当する。2015 年 8 月に完成する予定であったが、アンモニア－尿素設備を載せている船の火事により完成時期が 6 ヶ月延期する。

- * オーストラリアの鉱業メーカー Harvest Minerals 社は KMINE 社からブラジルのセルジッペ州にある Sergi 加里鉱山の開発権を買収した。買収金額は 80 万オーストラリアドルと Harvest Minerals 社の株式 3 億株である。Sergi 加里鉱山はセルジッペ州 Taquari Vassourasxi 峡谷の南に位置する。Harvest Minerals 社はすでに Taquari Vassourasxi 峡谷の北地域の優先開発権を持っているが、今回の買収で Taquari Vassourasxi 峡谷全ての加里鉱山開発権利を入手した。
- * アルジェリア Edeola・Bahwan 尿素工場が完成し、生産開始した。当該工場は 2 本の尿素生産ラインを有し、生産能力がそれぞれ 150 万トン／年、合計 300 万トン／年である。現在、第 1 本生産ラインだけ稼働して、その製品は 5 月末または 6 月上旬に輸出し始まるが、第 2 本生産ラインも今年中に稼働する予定である。製品全量は輸出向けである。

その他

- * インドが世界第 2 位の人口を有し、食糧安全保障が常に重要な問題となっている。現在、インドの生産人口約 65% が農業に従事しているが、その GDP への寄与度が 17% しかない。1990 年代に食糧自足を達成したが、人口の急速増加と農業生産の低効率により人口当たりの食糧生産量の増加が停滞している。2013 年中間層以下人口の 67% に食糧を提供する「国家食糧安全法案」をインド議会で通過し、2020 年に食糧生産量が 2012 年の 2.63 億トンから 3.2 億トンに増加することを目標とする。

食糧生産に欠かせないのは化学肥料である。インド政府は食糧収穫量増加分の 55～60% が化学肥料、30～40% が品種改良、10～20% が農業技術の進歩と見ている。1980 年～2000 年、インド政府の施策により、化学肥料工場の建設と生産能力の増強が進み、化学肥料の生産量が増え続け、それに伴って 1990 年代に食糧自足を達成した経緯があった。しかし、その後、環境保護運動の台頭により 1995 年以降化学肥料工場の新設ができなかった。その間に化学肥料の需要量が年間 5～6% の増加が続き、世界第 2 位の化学肥料消費国、最大の輸入国となった。

化学肥料の国内生産量が不足で、現在、インドの耕地面積当たりの化学肥料投入量が 140kg/ha、先進国の半分以下である。2014 年尿素消費量約 3100 万トンであるが、国内生産量が約 2300 万トンで、800 万トンが輸入に依存している。加里肥料に至って年間消費量約 500 万トンは 99% 以上輸入に依存する。これからも尿素有の需要量が毎年

約 100 万トン増加し、りん酸肥料、加里肥料、化成肥料も同程度の増加が見込んでい
る。

2014 年 5 月に行われたインドの総選挙で当選したインド人民党（BJP）は、モディ
首相が経済成長に重点を置き、2015 年に GDP 成長率が 8～9%になると予測される。
農業分野の成長、生活水準を確実に高めるために、食糧の増産が必須である。インド政
府はすでに国内の Talcher、Thal などに尿素等の化学肥料工場の新設を決定する同時に、
老朽化して閉鎖された Hindustan 社の Barauni 工場とインド化学肥料（FCIL）社の
Gorakhpur 工場を整備して再稼働をさせ、2020 年までに尿素生産能力を 300 万トン
／年増加する計画である。また、外国、主にイランと中東湾岸諸国に合弁で化学肥料工
場を建設し、生産された化学肥料を輸入することも推奨し、企業の海外進出を後押しす
る政策を打ち出している。

* カナダ Saskatchewan 州政府は、州議会に提出した 2015～2016 年度の予算案に加里
鉍山に対する採掘税の税率が上げる予定である。昨年からの原油価格の下落で、昨年度油
田から徴収した石油採掘税が 5.19 億ドルまで減少した。その減少分を補うために加里
鉍山の採掘税を上げることで、1～1.5 億ドルの増収を計画する。

* ノルウェー Yara 社はリビアの政治経済の不安定影響で、累積赤字が資本を超えたリビ
アにある Lifeco 窒素肥料工場の減資を実行した。Lifeco 窒素肥料工場は Yara 社、リビ
ア国営石油、リビア政府投資局の 3 者合弁企業で、2009 年から Marsa El Brega 市に
建設された。リビアの政局不安定で、生産に必要な天然ガスの供給およびインフラが保
障されない原因で生産が停止している。Yara 社は Lifeco 窒素肥料工場の 50%株式を有
し、帳簿価格が 1.12 億ドルであったが、帳簿価格 1800 万ドルに減資した。

一方、Yara 社は引き続き Lifeco 窒素肥料工場の経営管理に参画して、リビアの政治
経済が安定局面に回復することを待って、生産を速やかに再開する予定である。

* イスラエルの加里メーカー ICL 社のストライキがすでに 4 か月目に突入した。ストライ
キの起因は、昨年 12 月、カナダの CPC（Canada Potash Corporation）社はヨルダン
APC 社の 28%株式を取得する意向を表明したことである。CPC 社がすでに ICL 社の
14%株式を有しているため、ICL 社の労働者は CPC 社が APC 社の株式を取得するこ
とにより、ICL 社の労働者をリストラにして、塩化加里生産が同じ死海にあるが、人件
費の安いヨルダン側に移行するのではないかと危惧している。

ストライキにより ICL 社の塩化加里生産量が今年 1～2 月だけですでに 65 万トン
を減少した。2014 年イスラエルの加里肥料生産量 514 万トン、販売量 503 万トンであ
ったが、ストライキで今年の加里肥料生産量が少なくとも 20%減少すると予想される。